

会 議 録

会議の名称	第1回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	平成28年6月7日（火曜日） 午後2時00分から午後3時50分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 大会議室
議 題	別紙資料のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>議事</p> <p>(1) 杵築市の財政状況について</p> <p>(2) 今年度の委員会の進め方について</p> <p>(3) その他</p>	
審 議 内 容	
<p>(総務課長あいさつ)</p> <p>(欠席者報告)</p> <p>1名仕事の都合により欠席。</p> <p>(委員長あいさつ)</p> <p>○委員長：それでは、今日は杵築市の財政状況について財政課長から解説を。</p> <p>(杵築市の財政状況について財政課長説明)</p> <p>○委員長：今、説明を聞いたが、確かに市立図書館は痛かった。それと今度は、病院がどうなるか。これが大きい。今年決まるのか。</p> <p>○財政課長：そうだ。今年度、県の医療構想があり、パブコメをす</p>	

と思うが、東部医療圏、別府にベットが偏重して、杵築市・国東市は少ない。それを今さら言っても仕方がないので、これから間違いなく人口が減っていくのでベット数も減る。その中で地域医療をどうしていくのか。医療と介護と福祉、それをどう結びつけていくのか。そうした時に、山香病院の今の実態をみると患者は山香地域と大田地域と高田の一部、田染地域らしい。杵築地域は別府に行く。医療センターや厚生連等。そこをどうするのかということ。国の流れ、県の流れ、それから杵築市の実態、地域の思いもある。50年間山香町で国保の病院から設立してきた思いもあるので、その辺を含めて1年かけて、今のところ専門家の先生、大分大学医学部の先生や看護の先生方、あるいは地域の方等8～10人くらいの方々と、あと専門家のコンサルを入れて両輪でという形だ。かなり病院も努力をして、今年は190万円くらいの赤字だ。去年は億単位だった。

○副委員長：現実問題は山香に病院があり、そこに職員がいる。それを全くゼロにするというのは結局切り捨てることになる。だから、規模を縮小してでも、あの場所というわけにはいかないけれどもこの町中にコンパクトなあるいは、効率のよい病院を建てる。それも、市の所有地に過大なものにならないで効率よくやるという取り組みしか見えてこないじゃないか。

○委員長：折衷案からいけば。

○副委員長：180人くらいいる人を切り捨てるというわけにはいかない。

○財政課長：1年ではけりがつかないかもしれない。でも、逆に短期間でやってしまわないと、かえって難しいという思いもあるので、なかなかここ1年半くらいは大変じゃないかなと思う。

○副委員長：だから、要は病院をきちっとやるということと、杵築市が今やっている高齢者を元気にする、そういうこと。そういうも

のとくっつけて、できる限り病気にかからないように、相反することではあるが努力していかざるを得ない。

○財政課長：はい。特に、今後の大きいプロジェクトというのは、錦江橋をやっているが、これがまだ続き、負担金がある。それから、杵築中学校がまだ校舎も全然建っていない。仮設の校舎、仮設の武道場だ。これが、一番重くなるかなと思う。

○委員長：なぜそんなにかかるのか。

○財政課長：結局、建物を地震のI S値というのがあるが、それが危険なので、リースで校舎をすぐ造ってしまった。子ども達には迷惑をかけている。普通の校舎よりやっぱり休み時間は廊下がうるさい。しかも5年間しか持たないので、また2回目をしている。以前の校舎の後に造れば良かったが、新聞、マスコミ等でご承知の通り、考古学の先生が結局そこはやめましよう。では、隣接地にしましよう。隣接地は、杵築の一等地。一番お金のかかる、地価の一番高い所に移転せざるをえなかった。7年前に本当は、ぜんぜん違う所にいこうという話だった。杵築の商圈が、旧杵築じゃない所に流れていく。ここの商店街は空き地、空き家が多くて、この商店街が国道213号線に移っている。213号線を旧杵築警察署の所から、空港方面にジョイフル、病院、しまむら、ができたりして商圈が拡大している。そこまでが杵築の街。その裏側にいい土地があり、地価も安くてあったがそこが白紙になった。

○副委員長：それは議会で否決されたのか。

○財政課長：いえ、議会に行く前。杵築の区長の連判状や、最終的には議決まではしなかったが、そういう流れになって。じゃあ、しましようという時に第2段が、遺跡が出たのでここは絶対だめだという感じになった。あのまま建てられたら良かったが。なので、杵築中学校が一番大物になると思う。まだ出来てない。中学校に入って卒業は仮設校舎のままという子どもがかなりいる。

○委員長：このまま進めたら赤字になってくる。

○財政課長：はい。あと給食センターが今、山香地域と杵築地域にあるが、これがものすごく古い。子ども達のことを考えればしたい。これも病院と一緒にいろんな形があると思う。それから、さきほど申し上げた図書館。一番はケーブルテレビ。大分県はケーブルテレビが一番多くて全部の市町村でやっていると言っても過言ではない。情報過疎でキー局が3つしか映らない。昔キー局は4つだったが今は5つ。それを映す為に、CS・BSを入れて。加入率95.6%でかなりいいが、そろそろ耐用年数が来ているので電線の張り替えや光ファイバー。豊後高田市、国東市はみんな光。インターネットも早い。私どもは逆に早い時期にしたのでそこまでしてない。なので光化と老朽化を今度やろうとしている。当初は、補助金が出るが、2回目の改修・更新は出ない。通常の部分もあるので厳しい。でも夢のない町にはしたくないというのものもある。ただ、公共施設の管理計画を事務サイドでずっと積み上げているが、もう絶対新しい施設はアウト。今の施設も全部解体して、造るなら解体した場所にこぢんまりしたコンパクトな地区の公民館なら許容範囲ですけど、何十億もかかる施設は無理だ。スポーツ施設にしても、公式野球場がないのでそういう物も造りたい等、市民の方々の希望する文化ホール等、思いは分かるがなかなか大変。

○副委員長：もう、町とか市で全部揃えるというのは無理だ。そういう時代じゃない。

○委員長：広域で考えて。国体でさえ種目を1つの県で出来ない時代になってきている。

○委員：さっき夢のない町にしたくないと言ったが、もう1回教えて欲しい。この表がある。先程平成29年度からこうやって赤字になる。これはまさに夢がない。それで、前も聞いたがもう1回どうされるのかというのを知りたい。どっちみっちこう赤字になるって

いうのは、なんでこうやって赤字になるのかという大きな理由はきっと分かっているのではないか。

○財政課長：はい。

○委員：大きな物を造るとか。そうすると前も聞いたが、これはどうするのか。例えば、私たち市民からすればこういう数字を突き付けられたら、えっ、私たちの町ってどうなるの。と不安になる。その時に市の方から行政として今のままだったらこうなるけども、これにこういう案を入れていけば、これがこう改善されていってそれで、100%は改善されないが99%まで近づく。とか言ってくれと。そういう意味で、市としてはこういうことがもうすでに分かっているわけだから、これの改善計画案とかどういう風にするか。例えば病院の話もあったが、こんな状態だから止める。止めればどうにか改善できる。というような話はある得ないのか。

○財政課長：これからしていかざるを得ないと思っているし、杵築市のまちづくりの方向。どういう町にしていくのかという部分。さっき申し上げたように、住民自治協議会というのが各小学校区単位である。それは作っているがまだまだ。協働のまちづくりというのは、市役所はお金が無いので市民の人と一緒に手伝って何かやりませんか。ということだと思っている。お話をしてそこで解決できる問題とかそこにお金を入れる形で、今は、例えばカラオケで交流したりグラウンドゴルフをしたりだが、地域の問題は地域で解決しましょう。その代わりに、職員もそこに張り付ける。全体の進行は、この本庁がやるが、それぞれの地区の公民館で何かできないか。さっき言ったとおり交通手段がなかなかない。じゃあ、公民館までは行けるかもしれない。でも、町までは来られないみたいな。その辺も含めて。

○委員：それはもちろん良いことだが、それは個別の話。全体としての改善のスキームみたいなものを市の行政の中でこんな事をしよ

うというのをつくる予定はないのか。

○財政課長：これから。今年度中に行政改革でどう削っていくのか、行政の問題・財政の問題と両方を組織の問題とお金の問題をこういう風にしていきましよう。それから、総合計画というものもある面ではこれからの町づくりの大きい方向性を示すがそれもやりましよう。総合計画も行革も10年単位とかでなくて極端なことを言うと、市長の任期くらいでしていかないと10年先は分からない。毎年ローリングしていくがそういう形で、役所の中で課長会議等あるが、総務課は行革をやる、今度は違う課が総合計画をつくる。財政課も公共施設の施設計画をつくる。それを取りまとめて、最終的には今年度末あるいは来年の頭くらいに住民の方にわかりやすい説明等をしていかないといけないなと思っている。

○委員：言われるとおり初めから100%のものはできない。少なくとも何かがあってそれをローリングしていけば、ちょっと動いているなと思って、我々市民も安心するのでそこは是非、そういう動きを見える化して貰わないと不安でたまらない。

○財政課長：なかなかその辺が杵築市の職員は上手じゃない。例えば、豊後高田市、国東市と同じことをしているが、向こうは上手にマスコミを使ったりしてお知らせをしている。ホームページを見て頂いても分かるが、けっこう更新をして自分たちがやっていることをPRしている。でも、杵築市の職員はその辺が上手じゃないので一緒のことをやっても杵築市はやってない。と言われ、実際はやっている。言うときビックリされることがある。その辺も含めて、今言われたようにやってみたいと思う。

○委員長：もう平成28年度。もう来年から赤字の予想が出ている。言われるように民間じゃこんなことあり得ない。

○委員：あり得ない。

○委員長：家計でもそうだ。これだったら、車を止めて自転車に乗

るとか。生活レベルを下げる。

○副委員長：合併して、前の方にニンジンぶらさげて、美味しい餌でね。あるいは、そういう料理を出されても10年後はまた同じこと。

○委員長：だから、この話を聞くと我々がやっているのはほんの8.7%の世界。この間から言っているように。だからもっと大きな所を、副委員長も言われたようにやらざるを得ない。去年も書いたが。

○財政課長：なかなか市民の方も何もかもじゃなくて、隣町にこれを任せようと。例えば、隣町に文化会館を任せてコンサートに行けばいいやというところをしないと、何もかも自分の所でしたらすぐ赤字だ。

○委員長：それは、杵築市に限ったことでなくて、日本政府の予算自体がもう危機的状況にあることを国民がどれだけ知っているかという問題がある。

○副委員長：文化ホールの建て替え予算を抑えよう。あるいは、給食等の問題も業者をお願いしたらどうか。そんな意見がでてくると思う。常識的に。

○委員長：実態をちゃんと知れば。実態をちゃんと知ってないから、できるだけ良い物を造りたがる。欲しがる。

○副委員長：問題は、垂れ流しになっている杵築中学校。ちゃんとした場所に、お金が今後かからないように造ってあげないと、いつまで経っても垂れ流しじゃないか。これはあり得ない。

○委員：市の職員の給与カット。たぶん一番てっとり早いのは給料カット。私も何度も経験したがどんどんやる気がなくなって辞めて行く。そうすると、せつかく町を旗振りする人たちの情熱が無くなるから本当は、そこはあんまりやってはいけないと思う。私、企業で何回もその経験があって、なんでこんなに働くのにお金はカット

されていくのかと、どんどん人は辞めていく。

○委員長：速効性があるからすぐやってしまう。長い間にそれが常識になっている。カットするといいい人から出て行く。

○総務課長：特に病院の技師。民間の方が最初給料良いから。杵築市も去年技師を6人募集したが、応募はゼロ。やっぱり民間の方がいいようだ。人材確保というのにも必要。

○委員長：そうなると、選択と集中しかない。給食センターなどは、まさに別に建てなくて民間に委託すれば出来そうな気がするが。

○副委員長：山香と杵築で張り合う必要はまったくくない。好きな所にどうぞと民間にお願いする。なんでもかんでもこの小さな市でやってやろうと思うから間違いが始まる。もう、割り切りしかない。

○委員長：去年黒字になったというから、みんながそれで大丈夫だと思ってしまうのだろう。

○財政課長：職員にはかなりカットしてもらっている。予算も大変だった。私はいつも危機意識を言っている。お前たちが一番カットされると。かなりしているがまだまだ足りないし、やはり歳出を抑えて歳入を上げるという宿命があり、行政改革も行政整理という役人の課題。杵築市だけではないと思いながら。かなり温度差はあるが急激にくる所はあると思う。杵築市は良い方。

○委員長：人件費は相当切られるし、事業費はなし。自分達が出て行って道路を埋めないかと。

○総務課長：さっき財政課長が言ったように、住民自治がそういった地域づくりを自分達でやってくれれば、今まで行政がやれば100かかっていた物が地域に原材料なりある程度の日当で7割、8割で出来るというところがある。

○委員長：自分達で事業を作るというのも1つの手。コミュニティビジネス。それをやる為にはその実態を住民に周知して危機意識を上

げていかないと動かない。

○副委員長：この試算を徹底的に皆さんに知って貰うという必要があるのではないか。そうすれば無理な要求をしなくなると思う。

○委員長：なんで図書館にそんなに金をかけないといけないのか。今ある施設を使って分散してでも良いのではないか。種類別に本を集めて。

○副委員長：もう図書館はやっている。

○委員長：やっている話だから、あとと言えるのは病院と給食センター等、まだ着手していない分。あと、さっきの中学校。お金がどこから出てくるのか。

○副委員長：そんなにお金をかけて大学を造るのか。

○財政課長：普通の学校だったら2.5校分くらい。

○副委員長：今杵築市はそういう土地がないのか。

○財政課長：いや、最初に申し上げたように、1回争いがあった。反対派と賛成派が杵築の町から出て行く出て行かないというので。

○副委員長：だから、そういう議論はもうこれをちゃんと示して、あなた達馬鹿な話止めましょうよと言わないと。

○委員長：しかし、この今の町にそれをして、民が取り上げない。この実態を公表して分からせて民意を問わないと意味がない。

○財政課長：やっぱり杵築中学校とかも、そのエリアの関係者しか、興味ないようだ。

○副委員長：どこの市の議員か。自己の利益の誘導のためだけにやっている人は本当の市議会議員じゃない。

○委員長：おそらく、地域の代表で出ているから地域エゴがまだそれにぶら下がっていて、なかなかそこまで議員ができないのだろう。

○委員：やはりもう市民を味方にするしかない。私なんかは少数意見かもしれないが、さっきも言ったが市の職員の人件費を切るくら

いだったら切らない方がいい。こんなことしてやる気なくした市役所よりもあの施設をやり直す。と言ってくれた方が良く。もうやめましょうよ。と、そういう人もいると思う。そういう人を味方にするしかない。

○財政課長：せめて、敵をつくらないやり方かなと思っている。今回も熊本地震で庁舎の問題がでて、一般質問で受けたが。ここは昭和61年でもう30年経っている。庁舎が3つあって、大田庁舎の場合は総合支所化している。でも、福祉系と教育委員会系は山香庁舎にある。片道20分ちょっとかかる。昔は事務だけを考えていた。最近よく聞くのが杵築に来る、役所じゃなくて、例えば、訪問でヘルパーさんが来るとか、生活保護で来るとか、1日3回来るとかいう人。1時間30分くらいはゆっくり往復だけでかかる。その時間なり人件費なりを換算するとかなり。ただ、今これを見ると庁舎建設は勘弁してという形。

○委員長：ここは、耐震は大丈夫か。

○財政課長：一応、平成11年にやっていて。今のところ大丈夫だが、なかなか。

○委員長：それが大丈夫じゃなければ、ちょっとまた。しかしそれどころの話じゃない。火の車だ。

○財政課長：だから、うちの職員にも庁舎は最後と言っている。市民のニーズが。

○委員長：まあ、財務省はたいしたもの。周りは、ぼんぼん造っているけど財務省がやっぱりできない。文科省はやった、総務省でもやった、特許庁もみんなやった。さすがに自分の所はしない。

○財政課長：国東市、豊後高田市、宇佐市もいま建設計画をつくって、たぶん平成29年～30年、宇佐市は古すぎる。築45年。

○委員長：国東市は立派な物ができている。豊後高田市は見てないが。

○副委員長：近い所にあるのだからコンピューターの仕組みや光ファイバーさえ通せば、できる状況じゃないか。だから、もう箱物を市の庁舎として建てる必然性はまったくない。場合によっては、5階建てか4階建てで広い土地に四角形のやつをローコストで建てればいいことだけのこと。2つ建てるなどという馬鹿なことにならないようにしないと。

○財政課長：特に駐車場が心配。1か所に集めると。今のここだけでも駐車場の確保が大変。やはり職員の分も勿論だが、臨時の方も含めて毎年四苦八苦している。

○委員長：いずれにしてもこれを周知したら話の結論は、見えていと思うが。

○副委員長：出すなら早いほうがいい。どうして市報に出さないのか。

○委員長：長期財政見通しを出せばいいのに。今度我々の意見で勧告しましょう。去年も言えばよかった。

○財政課長：今のところ、大分市だけだと思う。合同新聞が取材をして。平成29年度頃に大分市は単年度赤字になるということで。大分市だけがたぶん新聞報道で。

○委員長：市役所の広報で呼んで記事にしてもらえばいい。

○副委員長：市民どうしの争いとか、市議会議員どうしの争いなんていかにナンセンスなことであると理解をしてもらったほうがいい。そして、お互い協力して、あれはこうしよう、ああしようとしたほうがいい。

○委員長：今の状況をみると、我々の意見は今言っていることがもう結論なので、補助金8.7%程度の補助事業を、あれを削れこれを削れという話じゃない。この状況を見ると。これ、平成27年の何月に作ったのか。去年も見せてもらった。

○財政課長：大体9月に決算認定を議会で頂くので、正式にはその

後にヒアリングを受ける。

○委員長：じゃあ、今年度も作るのだろう。

○財政課長：はい。毎年ローリングする。県の試算の方が歳入は高い。税収が上がるので。杵築市は、杵築市と比較するので、杵築市は少し下げ目にしている。杵築市はまだという形。県はある程度以前に比べて税収確保ができています。県の試算入りのものをくれるがそれと杵築市のもので照合しながら、歳出については杵築市のそれぞれの担当課で、福祉課なら福祉に扶助費の伸びを出してこいという形でさせている。

○委員長：では地方消費税はどうなっているのか。10%分入っているのか。

○財政課長：10%はない。今のところ8%のままでやっている。来年の4月なので今回入れる予定だったが、たぶん2年半後になると思う。

○委員：これはやっぱり公表すべきだと思う。公表する時には併せて対応案を出さないと。これだけ我慢しないといけないという案を出さないと聞いた人たちは、私たちどうなるのかと不安になる。

○委員長：A案・B案・C案くらい出しておかないと。

○財政課長：はい。

○委員長：いきなり市民が見せられた時には赤字再建団体だったなんてことになるかと大変だ。

○副委員長：この中には中学校の部分や給食の分、市の施設の建て替え等入っているのか。

○財政課長：入っている。

○副委員長：こうなったら、こうなるから、これはやめるという試算をつければいい。

○財政課長：総合計画の実施計画を毎年ローリングする。例えば、道路を5か年で改修する。新規道路を造る等が出てくる。それに概

算額が出てくる。その概算額を積み上げた部分なので、5か年くらいの精度は高い。財政サイドとしてその辺を把握している。ただ、10年先が正しいのかと言われるとなかなか難しいところがある。5年先までは、ある程度総合計画の中に入っている部分もある。とにかく厳しいのは間違いない。

○委員長：ここの所、毎年だけど基金を取り崩して行ってこれだから。

○財政課長：特に扶助費が。

○副委員長：これはどんどん増えるだろう。

○財政課長：はい。団塊世代が後期高齢者にこれからなり、75歳に入っていくと医療費が上がっていく。だから今、健康寿命ということで、平均寿命も勿論だが健康寿命。予防は長くかかる。杵築市の場合歯を大切にしましょうと。赤ちゃんからお年寄りまで、各世代にわたって市全体で歯科衛生委員会を作って目標を定めましょうという形。毎年そういう形でいこうと。今、県から人事交流で保健師に来て頂いて、かなり一生懸命やってくれている。県の職員は政策能力がある。種を蒔いて頂いているので4年先、5年先を見ると、健康寿命は健康な方が微増していくのではないかと思う。

○委員長：財政状況について話はだいぶ聞いた。次に今年度の委員会の進め方について。

○総務課係長：私の方から説明する。今回、第1回目の委員会で杵築市の財政状況について説明をした。次回、第2回委員会では事業の評価について協議して頂きたい。昨年補助金の評価をして頂いたが、補助金は杵築市の予算のほんの一部に過ぎないということで、今年は事業の評価をしたいと思う。今皆様に見て頂いた中期財政収支試算の概要、この元になっているのが、本日配布している実施計画。この事業がこの中に入っている。

○委員長：全部入っているか。

○総務課係長：この実施計画書に挙げられている事業の評価を委員会の中でしていきたい。昨年度最後の会議でも少し説明したが、このシートがこの実施計画書のシートと連動している。平成28年度の実施計画書には約280の事業が載っている。この内、平成28年度に事業を行うものが167あり、その中で大きいもの、主なものをピックアップして今から照会する。それを事務局で取りまとめ、第2回目の会議で協議する。やり方は、昨年の補助金評価のやり方と同じ。まずは各課の一次評価、総務課長の二次評価の後、この委員会の評価コメントを入れ、それを担当課に戻して、担当課がこの後どうするのかというコメントを入れて次年度に臨む。さっき、財政課長が10月くらいにローリングをして、それを予算査定に反映させ、この事業評価をこの委員会で評価した分をまた予算に反映させ、実施計画のヒアリングまでに皆さんの評価のコメントを頂いて市長に報告したい。スケジュールを見て頂くとお分かりになると思うが、8月から9月くらいに第2回目の会議ができれば良いかと思っている。その後、10月に事業評価の評価書の審議をして頂き市長に報告、その後、財政課が各課のヒアリングを行う。その後は、昨年と同じやり方だがアクションプランの進捗管理。これは昨年と同じやり方でやっていきたい。1回で済めば良いが、第4回、11月くらいに終わらせて、その後、報告書の審議をして頂き、報告。簡単に説明をするとそういった流れになる。それと、皆様ご承知のとおりだが、今年度までで今のアクションプランと行革大綱の計画年度が終了。引き続き、行政改革を推進していくということで、今年度、来年度以降の第3次行革改革大綱の策定をする。実際にやるのは、行政改革推進本部があり本部長は市長、副本部長は副市長、本部員は全課長ということで庁内の推進本部になる。その中で第3次大綱の素案を作っていこうと今準備をしている。

○委員長：それはいつスタートか。

○総務課係長：第1回目の会議を先週し、策定方針を一応説明した。

○委員長：もう動いているのか。

○総務課係長：方針だけ。今から各課に色々な取り組み項目等の調査をする。素案ができる前のたたき台を作る。総務課で素案は作りたと思うが、2回目の推進本部会議にかける前に皆様の意見を頂こうかと考えている。

○委員長：2回目の推進会議はいつあるのか。

○総務課係長：2回目の推進本部会議は、10月に開催しようと思っている。この会議と一緒に最初にやり方を説明して今から素案を作り、各課に照会する作業の時間がある。

○委員長：それは、議会承認をとるものか。

○総務課係長：いや、議会は最後に説明をするが、議決がいるといったものではない。

○委員長：それは、3月に出すのか。

○総務課係長：3月に出す。ということで、第2回目のこの推進委員会もしくは、3回目くらいにこんな形でやりたいと皆様にお示した後に意見を頂き、それを反映した形で推進本部に説明したいと思う。昨年から皆さんとこの推進委員会をやってきて委員の皆様からいろんな意見を頂いているので、それはきっちり素案を作る段階で反映していきたい。具体的な数値目標を掲げるとか、そういう所は策定方針の中に盛り込んでいる。

○委員長：9月からスタートして1か月に1回ずつくらいやったらいいかもしれない。

○委員：委員会というのは、例えば、各月の上旬、中旬、下旬と大体この位と決められるのか。それとも、なかなか難しいのか。

○総務課係長：まだ、そこまでできない。昨年は、同じ月に2回やったこともあった。

○委員長：あれから比べると月1回にしてもらっただけでも違う。それからその他。

（平成28年度の補助金等予算反映状況について説明）

○委員長：少額の補助金は、だいぶん廃止になったようだ。

○総務課係員：はい。

○委員長：厳しい意見を申し上げたからそれだけの結果が出た。またしっかり中身を確認していかないと。厳しくやった成果が2億ちよっとあるから。概ね反映して頂いている。

○総務課長：十分ではないが。

○委員長：そうだ。今年もしっかり評価をしていこう。

○総務課係員：お願いします。

○委員長：はい。個人番号はどうするのか。

○総務課係員：年末に源泉徴収票をお送りする際に必要になるので次回委員会時に提出をお願いしたい。

○委員長：はい、その他。もうないか。よいか。

○総務課係長：はい。

○委員長：今日は、財政課長が出席して我々の要望していた財政関係ができて良かった。帰って勉強しないといけないといけない所も色々あるが。こういうものを踏まえてやらないと。重箱の隅をつつくような小さいところをつついても仕方がないので。根本をおさえないと。まだ少し時間があるのでまた資料等を事前に送って頂ければ大変助かる。事務局は大変だと思うが、どうぞよろしく願い致します。では課長。

○総務課長：長時間にわたり慎重審議をありがとうございました。これから平成28年度の行政改革推進委員会ということで、資料等、言って頂ければ担当課に出させ、すぐに送らせて頂くので遠慮なく事務局の方に申し出て頂きたい。今度は8月末または9月。ちよほどまた議会と重なるが日程調整し、会議を開催したい。また今

後ともよろしく願います。今日はありがとうございました。

○委員長：せっかく来たからしっかり勉強しよう。結果がでてくる。

○総務課長：財政課長が言ったように、今度総合計画の見直しもあるので、そこら辺の整合性・総合戦略進めていく中でその資料等も随時提供し、見ながら判断して頂ければ。

○委員長：私の方は、市長への意見書には必ず書くことは決まっている。去年は遠慮して書いたが今年はしっかり書きたい。